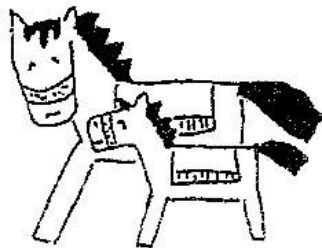


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

29年 1月 NO.266

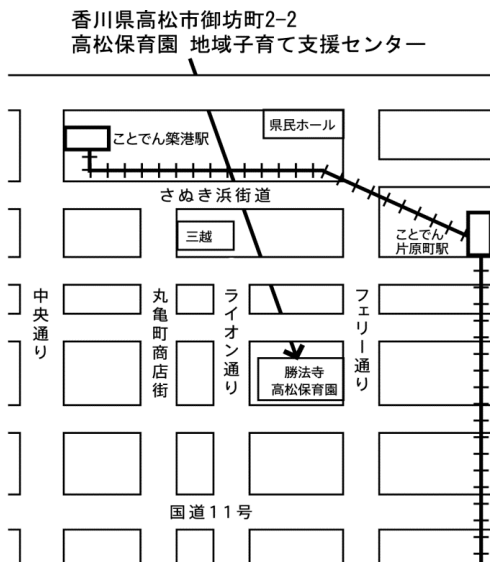


〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		1月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
1月 7日	土	体験保育 10:00～12:00	体験保育	同じ年齢のクラスに入ってあそびましょう。
1月 13日	金	おはなしの会 10:00～12:00	おはなしの会	「お正月さん」をテーマに大型絵本やパネルシアター、紙芝居もあります。どうぞおいで下さい。
1月 17日	火	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	香川みすゞさんの会	手品やかかるた、すごろく、干支(えと)の折り紙など楽しいことがいっぱいです。
1月 20日	金	健康育児相談 11:00～12:00	健康育児相談	園医師(小児科医)にゆっくり相談できます。 (予約要)
1月 21日	土	体験保育 10:00～12:00	体験保育	出産予定の方も是非子育て体験においで下さい。
1月 21日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	絵本と小物づくり	びっくり画用紙シアターをつくります。 どなたでもどうぞ。 準備がありますので、15日までに予約要。

<ul style="list-style-type: none"> 火～土の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。(但し、月・日曜・祭日は休み) 	<ul style="list-style-type: none"> 育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



金子みすゞ全集⑤
「さみしい王女・上」より

去年、みたみた、
お正月、元旦、
黒い帆かけたお舟に乗って、
西へ西へと逃げてく影を。

去年、みたみた、
お正月、元旦、
黒い帆かけたお舟に乗って、
西へ西へと逃げてく影を。

お舟、ゆくゆく、
あのゆく先に、
去年のあがる港があるか、
去年を待って、たあれか居るか。

お舟、あの舟、
乗ってるものは、
きょうの初日(はつひ)に追い立てられた、
ふるい去年か、去年か、そうか。

お舟、みたみた、
お正月、元旦、
旗も立てずに黒い帆
ここの港を出てゆく帆



高松市内公私立の保育所研修会でご講演をしていただきました竹内昌彦氏の著書「粹な話」からご紹介します。(竹内氏は小学3年で失明)



初めての沖縄旅行



1988年の春、岡山市の郊外に2千メートルの滑走路を備えた本格的な飛行場が完成した。そして、東京はもちろん、札幌や那覇など、国内の主要な都市へ飛ぶ定期便もでき、県庁からは「遠距離の旅行や出張などは、できるだけ飛行機を利用するように」という文書が流された。このとき、当時岡山盲学校に勤めていた私の胸に、ある考えが浮かんだ。それまでは修学旅行といえば、列車を使って東京か九州に行くことしか考えられなかったが、この機会に思い切って飛行機で沖縄に行ってみてはどうだろう。旅をするチャンスの少ない生徒たちに飛行機を体験させてやりたい、そして岡山では見られない沖縄の自然に触れ、先の戦争で恐ろしい地上戦に巻き込まれた沖縄の地で、平和の尊さを学んでほしい、これが私の願いであった。この思いを日頃から親しくしている旅行会社のMさんに話したところ、彼はすぐに修学旅行の乏しい予算の中で収まる3泊4日の沖縄旅行を企画してくれた。

この計画を生徒と校長先生に話したところ、生徒たちはもちろん大賛成、

竹内昌彦氏プロフィール

- 昭和 20年2月 父親の赴任先中国天津で生まれる
26年9月 小学校入学
28年2月 網膜剥離により失明
29年4月 岡山県立岡山盲学校小学部3年編入、
以後同校中学部・高等学部へ進学
43年3月 東京教育大学教育学部特設教員
養成部卒業
平成 17年3月 岡山県立岡山盲学校教頭退職
- 現在 ・岡山県立岡山盲学校講師
・社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会理事
・社会福祉法人 岡山ライトハウス理事

校長先生からも「初めてのことですけど、いいプランだと思いますから進めてください」という温かい言葉が返ってきた。

ところが、生徒の一人から異論が出た。昔、田舎の小学校で、授業開始の鐘を「カラン・カラン」と鳴らして回る仕事をしていたという50歳代のSさんが

「わしゃあ、ジェット機やこう、恐ろしゅうて、よう乗らんで。船で行くわけにやいかんのかなあ」

と言う。最初はかなり深刻な声の訴えで、どうしたものかと思ったが、やがて周りの生徒たちの説得で、彼の心配も和らいでいったようにもみえた。

ところが出発の日のことである。Sさんはジェット機の私の座席の真後ろに座った。そして、ジェット機がエンジン音をとどろかせて滑走路を走り出したとき、彼はいきなり私の座席の背もたれにしがみつき、揺さぶりながら震え声で叫びだした。

「先生、もうおえん！もう、おしめえじゃ！心臓が止まりそうじゃ！こねえなものに乗らにやあよかった！助けてくれえ！」

もう、ここまできたらどうすることもできない。ジェット機はさらにエンジン音を上げて空中へと舞い上がり、彼のパニックは最高潮に達した。ところがである。やがてジェット機は瀬戸内の穏やかな天空に達して静かな水平飛行に移り、エンジン音は静かになった。とたんにSさんは

「なんなら、こねえなもんなら、少しもこええことはない。びくびくせにやあよかった」

と、がぜん元気を取り戻し、乗務員の若い女性に手を引かれてトイレに行ったり、挙げ句の果てには彼女とツーショットの写真をおねだりという具合で、今度は別の意味で私をはらはらさせた。旅は思わぬスクールに見舞われるというハプニングはあったが、生徒たちはデイゴやガジュマルなど南国特有の植物に触れ、沖縄料理に舌鼓を打ち、集団自決が行われたという



チビチリガマにもぐったり、ひめゆりの塔に手を合わせるなど、たくさんの思い出を残して無事終わることができた。

卒業後もSさんからはしばしば我が家に電話がかかってきた。

「先生、毎朝腰がいとうなるという患者が来たけど、どこが悪いんじやろか」

「膝がいてえいう太ったお婆さんが来るんじやけど、なかなか治らんなあ」

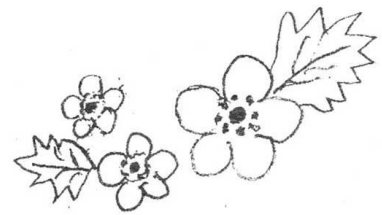
そんなまじめな話の後、決まって彼の口から出るのは

「それでもなあ先生、わしの家の周りにはジェット機で沖縄へ行ったもんやこう、一人もおらんで。わしが沖縄の話をしたらみんなびっくりしとる」という自慢話であった。

「それでもジェット機をものすごく怖がった生徒もおったで」と、私がいうと、

「それは言わない、それは言わない」

という笑い声で電話が切れるのが常だった。



Sさんの訃報が届いたのは、彼が卒業して数年後のことだった。一人暮らしの彼は、体の不調を誰かに訴えたかったのか、電話の受話器を握ったままの死であったという。彼が住んでいた田舎町に向かって静かに手を合わせた。中途失明という運命にもめげず、正直にまじめに生きてきた彼、華やかさも恵まれることも多くはなかったであろう彼の人生、でも、その中に、あの沖縄旅行の思い出は、明るい1ページとして刻まれたのではなかったろうか。ここまで思いをつないだとき、寂しさの中にも僅かな安堵と温もりを覚えた。

彼のことだから、極楽に行っても、あの沖縄旅行の自慢話をしているかもしれない。

